

令和5年度加東市滝野地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託

公募型プロポーザル審査結果報告書

令和5年8月

加東市滝野地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託

加東市プロポーザル審査委員会

令和5年度加東市滝野地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託に係る
公募型プロポーザル審査結果の報告について

下記の業務について公募を行い、受託候補者の選定に当たり、令和5年度加東市滝野地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託に係る加東市プロポーザル審査委員会（以下「審査委員会」という。）において審査した。

1 業務の概要

(1) 業務名

令和5年度加東市滝野地域小中一貫校基本・実施設計作成業務委託

(2) 業務期間

契約締結日の翌日から令和7年3月25日まで

2 選考の経過

・実施の公告	令和5年6月14日（水）
・参加申込書の提出期限	令和5年6月29日（木）
・一次審査	令和5年6月30日（金）
・一次審査結果通知	令和5年7月5日（水）
・質問書提出期限	令和5年7月12日（水）
・質問書回答期限	令和5年7月24日（月）
・企画提案書提出期限	令和5年8月2日（水）
・二次審査	令和5年8月10日（木）
・二次審査（選定）結果通知	令和5年8月16日（水）

第1回審査委員会

開催日	令和5年6月7日（水）
場 所	加東市役所 2階 201会議室
出席者	7名（欠席者なし）
概 要	①委員長・職務代理者選出 ②実施要領（案）等の確認

第2回審査委員会

開催日	令和5年8月10日（木）
場 所	加東市役所 2階 201会議室 4階 402会議室
出席者	7名（欠席者なし）
概 要	①審査に係る事前打合せ ②プレゼンテーション及びヒアリング ③審査表集計・受託候補者選定

3 受託候補者の選定

(1) 選定方法

受託候補者の選定に当たっては、審査委員会を設置し、審査委員7名が実施要領に記載した評価基準に基づき、審査した。

(2) 評価基準

審査に当たっては、実施要領に記載した評価基準及び配点に基づき、評価を行った。評価基準における代表的な項目は次のとおりである。

ア 事業所評価

- ・業務実績の内容及び業務実施体制

イ 配置技術者評価

- ・配置技術者の能力等

ウ 企画提案評価

- ・加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校
- ・快適でゆとりのある学校
- ・既存施設と増築施設（改築含む）との一体的な利用
- ・安全・安心な環境を備えた学校（工事中も含む）
- ・脱炭素社会に貢献する持続可能な学校
- ・イニシャルコスト・ライフサイクルコスト縮減の工夫
- ・地域とともに全ての世代間の交流ができる学校
- ・業務委託仕様書に掲げる基本方針・建設工期との整合性

エ ヒアリング評価

- ・取組意欲

オ 価格評価

- ・設計業務見積金額の妥当性

4 審査結果

審査の結果、次の者を受託候補者として選定することに決定した。

- (1) 受託候補者 株式会社東畑建築事務所 本社オフィス大阪
- (2) 所在地 大阪府大阪市中央区高麗橋二丁目6番10号
- (3) 審査結果表 別紙のとおり

5 審査概要

本市では、小学校と中学校の垣根を越えた系統性・連続性のある教育活動を行い、義務教育9年間を通して自立した子どもを育む小中一貫教育の推進に当たり、その理念に則った小中一貫校を新たに建設するための設計を行う。

小中一貫校の設計には、教育及び教育施設への知見、過去の実績等、高い専門性が不可欠である。入札金額のみで選定するのではなく、実績、技術力、企画力、創造性等を勘案し、総合的な見地から判断して最適な設計者を選定する必要があることから、「公募型プロポーザル方式」により公募することとした。

一次審査では、6者から参加申込書の提出があり、参加資格要件の確認及び関係書類の評価を行い、参加申込者6者のうち上位5者を一次審査通過者とした。

二次審査では、5者から提出された企画提案書について、それぞれ30分間のプレゼンテーションとそれに対する20分間のヒアリングを実施した。的確性、独創性、実現性、妥当性や業務に対する取組意欲などについて総合的に評価し、受託候補者を選定した。

6 企画提案書の審査講評

(1) 全体講評

本業務の特徴として、「加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校」「快適でゆとりのある学校」「地域とともに全ての世代間の交流ができる学校」等の小中一貫校としての基本的な設計方針とともに、既存の中学校校舎を利用した増改築計画であること、さらに中学校については授業等の教育活動や課外活動を実施しながらの工事となることから、設計者には特に「既存施設と増築施設（改築含む）との一体的な利用」や、「安全・安心な環境を備えた学校（工事中も含む）」を提案できる高い設計能力が必要とされている。

その中で、公募型プロポーザル（二次審査）に対して5者の参加があり、限られた期間であったにもかかわらず、それぞれに工夫が凝らされた高いレベルの提案が数多く見られた。審査委員会では、各委員の専門性を生かしつつ、中立・公平な立場から、また様々な観点から提案者に質疑応答を実施した上で評価を行った。

今回の企画提案の内容としては、既存施設との関係を含めた増改築施設の全体的な配置として、大きく分けて3通りの提案が見られた。

- ① 基本計画における配置・平面計画の検討を踏まえた上で、さらに既存施設との一体的な利用を図りつつ、増改築施設を機能的でコンパクトにまとめることにより、屋外運動施設の規模を確保しながら、工事中の安全面に配慮し、管理しやすく、使いやすい学校とする提案が3者からあった。

- ② 基本計画における配置・平面計画の検討と比較しながら、増築施設の配置は基本計画と異なり、既存中学校校舎の南側に広場を挟んで増築施設を配置し、各施設の構成を明快にすることで、既存施設と増築施設とのより一体的な利用を図った提案が1者からあった。
- ③ 基本計画における配置・平面計画の検討を踏まえた上で、普通教室を全て増築施設に配置して生活学習棟とし、既存中学校校舎には特別教室を集約して探求学習棟とすることで、全学年の普通教室の環境を整えながら、増築施設をコンパクトにまとめ、異学年交流を積極的にすすめる提案が1者からあった。

その中において、受託候補者の提案は①の配置計画としながら、校舎と屋外運動施設および敷地内の通路や広場などの全体プランが明快でわかりやすく、一体型小中一貫校として4-3-2制への対応や、高学年と低学年を分けたゾーニングとしながら異学年交流にも対応でき、また地域連携や環境教育への配慮、施設内の見通しから災害時や工事中の安全面への配慮、工事中の教育活動の継続性などの点において高く評価された。

なお、審査委員会においては、受託候補者の提案に対する課題として、新築施設の光庭の有効性、中学生の昇降時の集中、階段の位置や幅などの安全面の検討、配食室や部室などの配置、駐車場利用、造成工事の時期などの更なる検討と調整を求めるものである。

(2) 個別講評

<受託候補者>

全体講評に記載した通り、配置計画は①であり、増改築施設を機能的でコンパクトにまとめながら、全ての企画提案項目についてバランス良く高いレベルの提案となっている。8項目の企画提案のうち、「加東市がめざす小中一貫教育が推進できる学校」への考え方の項目においては僅差で3番目の評価となったものの、それ以外の7項目全てで最も高い評価を受け、企画提案の合計およびヒアリング評価・価格評価を含めた総合評価ともに最も高い評価を受けた。

<次点者>

配置計画は②であり、次点者のみが増築施設を既存中学校校舎の南側に広場を挟んで配置し、各施設の構成を明快にすることで、既存施設と増築施設とのより一体的な利用を図り、景観等の地域との調和や災害対策など、現地の状況をよく調査検討した上で基本計画の課題を改善する提案が評価された。一方で、南側隣地の民家への音やのぞきこみ等の影響や、小体育館やプールへの移動動線、アフタースクールがJRの線路に近くて小グラウンドから遠いこと、配食室や部室の配置などの点は評価が得られなかった。

また、プールやテニスコートなどの工事期間中の教育・課外活動の継続性についても課題とされた。企画提案のうち3項目について最も高い評価を受けたが、企画提案の合計で次点となり、ヒアリング評価・価格評価を含めた総合評価においても次点となった。

<第3位>

配置計画は①であり、増改築施設を機能的でコンパクトにまとめ、一体型小中一貫校として4-3-2制への対応や高学年と低学年を分けたゾーニングとしながら異学年交流にも対応できるプラン、支援教室を含めた全ての教室が南向きである点、災害対策施設の配置、工事中の教育活動の継続性、本事業への取り組みの姿勢などは高く評価された。

一方で、新築施設の廊下が複雑なプランとなっており見通しが良くない点、敷地東側および北側の道路が狭い状況でのバスロータリーの北側への配置の提案、新旧校舎間の1階での動線などについては評価が得られなかった。また、プールが遠くて目が届かない点についての指摘があった。ヒアリング評価・価格評価を含めた総合評価においては同点で第2位となったが、企画提案の合計での評価の差により最終評価は第3位となった。

<第4位>

配置計画は①であり、基本計画における配置・平面計画の検討を踏まえ、増改築施設をコンパクトにまとめた提案であり、小中の特性を考えた教室・グラウンド配置、内装の色によって進級を実感させる工夫、災害対応時の拠点施設の配置などが評価された。一方で、既存施設と増築施設が1階および2階バルコニーでつながっているのみで一体的利用が図られておらず、また普通教室の配置が4-3-2制に対応できていないなど、一体型小中一貫校の良さを生かす工夫については評価が得られなかった。また、アフタースクールがJRの線路の近くに配置されている点、小中学生・教員の通学・通勤、車両、自転車などの動線が分けられておらず、安全確保の問題点も指摘された。

<第5位>

配置計画は③であり、普通教室を全て増築施設に配置して異学年交流を重視し、既存中学校校舎には特別教室を集約して探求学習棟とする独自の提案が評価された。一方で、教室やトイレ、グラウンドおよび敷地内の動線などの低学年と高学年のゾーニングが明快でなく、4-3-2制への対応もできていないなど、一体型小中一貫校としての教育活動への懸念が指摘された。また、既存中学校校舎に特別教室を集約する提案に対しては構造・設備・コストの面での実現性への課題、さらに工事中に特別教室を使用できない期間が発生する問題が挙げられた。さらに、職員室の水害対策、避難経路、各階外部渡り廊下の悪天候時の使用などの問題点が指摘された。ヒアリング評価・価格評価を含

めた総合評価においては同点で第4位となったが、企画提案の合計での評価の差により最終評価は第5位となった。

おわりに

今後、受託者には基本・実施設計の各段階において、今回の提案内容をもとに、市の意向を最大限尊重し、地域とも連携しながら滝野地域にふさわしいさらに充実した小中一貫校の実現に向けて尽力されることを期待する。

最後に、審査委員会として、全ての参加者の本プロポーザルに真摯に取り組まれた熱意と努力に対して敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

令和5年8月

加東市プロポーザル審査委員会委員長

審査結果表

■一次審査

評価項目		評価点				
		備東畑建築事務所 本社オフィス大阪	参加者A	参加者B	参加者D	参加者E
事業所の 評価	業務実績の内容	15.0	13.0	13.0	14.0	15.0
	業務実施体制	5.0	7.0	5.0	7.0	5.0
配置技術 者の能力 等	管理技術者の能力等	5.0	4.5	5.0	5.0	5.0
	建築（総合）技術者の能力等	5.0	4.5	5.0	4.0	2.5
	建築（構造）技術者の能力等	5.0	5.0	4.5	3.5	5.0
	電気設備技術者の能力等	5.0	5.0	4.0	3.0	5.0
	機械設備技術者の能力等	4.0	5.0	4.0	4.0	5.0
一次審査評価点		44.0	44.0	40.5	40.5	42.5

■二次審査

評価項目		評価点（審査委員7人の合計）				
		備東畑建築事務所 本社オフィス大阪	参加者A	参加者B	参加者D	参加者E
企画提案 内容	加東市がめざす小中一貫教育 が推進できる学校	46	40	40	48	48
	快適でゆとりのある学校	50	42	44	46	48
	既存施設と増築施設（改築含 む）との一体的な利用	52	38	40	50	46
	「安全・安心な環境を備えた学校 （工事中も含む）」への考え方	52	34	34	46	50
	「脱炭素社会に貢献する持続 可能な学校」への考え方	48	42	44	46	48
	イニシャルコスト・ライフサ イクルコスト削減の工夫	50	40	42	48	48
	「地域とともに全ての世代間 の交流ができる学校」への考 え方	48	40	42	44	48
	業務委託仕様書に掲げる基本 方針・建設工期との整合性	48	36	42	46	46
ヒアリン グ	取組意欲	56	38	36	48	54
価格	設計業務見積金額の妥当性	28	42	28	42	28
二次審査評価点		478	392	392	464	464